

### なつやすみ総集編





# <u>川系男子の『川と人』めぐり</u> No. 5 ~፱烁み川めぐりランキング~

坂本貴啓(筑波大学大学院 生命環境科学研究科 博士前期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』 めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。 川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

#### 1. 川系男子のなつやすみ

ニイニイゼミの鳴き声に始まった夏休み. 夏真っ盛りの頃になると,アブラゼミやミンミンゼミが競うように鳴いていたのに,お盆を過ぎた頃からいつの間にかツクツクホウシに変わっていた.

夏の終わりはいつも切ない. 小学生の頃からお盆を過ぎると「あと〇日・・・」と夏休みを数える癖がある. 昨年 M2 の先輩に「先輩は来年社会人になるから、最後の夏休みですね!しかも今日は最後の日ですね!」と笑顔で言ったのに、寂しくなるからやめろと怒られてしまった. 今年は先輩の気持ちがよく分かる.

ここ数年の夏休みを振り返ると、やはり川にばかり行っている記憶がある。なので、今年も夏休みの川の記憶を思い出してみたいと思う。記憶に残る川をランキング形式で紹介していくが、あくまで便宜的であり、どの川も全ていい思い出の川。なつやすみの川めぐりを絵日記帳とともに振り返る。

表1 川系男子の夏休みの川巡りの記録

| 訪問日            | 河川名               | 所在地      | 内容                             |
|----------------|-------------------|----------|--------------------------------|
| 7月6日           | 落合川               | 東京都東久留米市 | 湧水由来の水質良好な都市河川を見学              |
| 7月11日          | 隅田川               | 東京都中央区   | 隅田川のリバーフロントを散策                 |
| 7月13日          | 隅田川               | 東京都中央区   | 日の出桟橋~浅草まで遊覧船で見学               |
| 7月14日<br>~16日  | 木曽三川              | 岐阜県, 愛知県 | 木曽川推計(特に飛騨川, 木曽川, 長良川を<br>めぐる. |
| 7月18日<br>~24日  | 遠賀川               | 福岡県北九州市  | 実家に帰省                          |
| 7月19日          | 花月川<br>山国川        | 大分県      | 今月二度に渡る北部九州豪雨の現場視察             |
| 7月20日          | 大分川<br>大野川<br>番匠川 | 大分県      | 大分の一級河川を部分的に見学                 |
| 7月23日          | 那珂川               | 福岡県福岡市   | 水上バスで都市空間の中の河川景観を見学            |
| 7月27日<br>~29日  | 諏訪湖               | 長野県下諏訪町  | 諏訪湖16kmを歩いて一周                  |
| 8月3日           | 北浦                | 茨城県鹿嶋市   | 北浦流入河川10川で流量観測                 |
| 8月4日 ~5日       | 依田川               | 長野県上田市   | 信州爆水RUNの鉄人コースに参加               |
| 8月13日          | 日本橋川              | 東京都中央区   | 高速高架下の日本橋川を遊覧                  |
| 8月19日<br>~24日  | 済州島の川             | 韓国済州島    | 火山島の水無川を見学                     |
| 8月27日<br>~30日  | 吉野川<br>那賀川        | 徳島県      | ゼミ合宿で12名で川めぐり                  |
| 8月30日<br>~9月2日 | 仁淀川<br>物部川        | 高知県      | 夏休み最後を一人旅                      |



## 【10位】

## 北浦

同じ専攻の友人が霞ヶ浦で流域の水収支に関する 研究をしている関係で、友人に流量観測の手伝いを 頼まれたので、北浦の流入河川 10 本をめぐってきた. 北から順に,境川,大洋川,白鳥川,上幡木志崎境 川, 沼里川, 石川, 居合排水路, 中里川, 水神川, 流川の計 10 河川だ. 流入河川の河口付近で流量観測 をするのだが、川幅は 4-5m 程度の小規模な河川で、 川の中に入って十分観測できる. また, 小さな川で も一本一本に名前がついていて、水神川なんていう 名前は誰が、どういう由来に基づいて命名したのか とても気になる.この日は気温が30℃以上あり, 特に暑かったので、川に浸って流量を計っている時 至福な一時だった. 川底をよくみると, ヌマチチブ やスジエビ, ザリガニ, ヌマムツなどが行き来して いる. 観測の合間、大きなザリガニを捕まえ、青い 空に高くかざし、遊んでいた.



# 【9位】

## 番匠川

大分には計5本の一級河川がある。筑後川、山国川、大分川、大野川、番匠川だ。その中で県の最も南にあるのが番匠川。どちらかというと全国に109ある一級水系の中でもマイナーなほうだろう。番匠川を見ようと大分県を南下していたが、大雨が降り出し、これ以上進むことは難しいと判断し、道の駅で休憩をとることに。

佐伯市の国道 10 号線沿いにある道の駅やよい.ここには番匠おさかな館という淡水魚の水族館が併設されている.館内には数多くの水槽や展示があり、番匠川のことや魚のことが分かりやすく解説されている.特に、外の川の中の様子を館内のガラス面からみることができる大パノラマ水槽は見応えがある.オイカワやカワムツ、アユが水の中を軽快に泳いでいる姿をみていると、こちらまで涼しくなれる.

平成 13 年に開設されてこのおさかな館だが,道の駅に川の施設をつくるとは当時としてはかなり斬新な発想だったと思う.館内には学芸員の方が 2 名おり,明日からの企画展の準備でお忙しいにも関わらず,番匠川の解説をしてくださった.皆さんもお近くに行った際にはぜひ番匠川へ.

http://rs-yayoi.com/osakanakan/index/index/index.htm (番匠おさかな館 HP)



## [8位]

### 那珂川

福岡に帰省した際、福岡市の天神に遊びに行った際に街の中を流れる那珂川で水上バスに乗った. 天神の福博であい橋から那珂川を下り、博多湾にでて、ベイサイドプレイスまで行くルートだ.わずか500円と料金もリーズナブル.観光にも交通手段としてもおすすめだ.

ビルに囲まれた街の中であるが、橋にはアオサギがとまり、水面から時々ボラが跳ね、干潮時にはカニが顔を出すなど常に飽きない。川沿いには中洲の屋台街やリバーテラスカフェが軒を連ねていて、街の中の行きたいところを川の中から再発見できる。下るにつれて、潮の香りが漂ってきた。河口付近になると、赤い博多ポートタワーが見えてきた。博多湾にでると、コンテナ港に行き交う船、遠くには金印が発見された志賀島がみえる。船頭のお兄さんのトークを聞きながら下っているとあっという間にベイサイドプレイスに。街の中の20分の水上散歩。川系男子の諸君、彼女と一緒に川系デートにいかが?

<u>http://yokanavi.com/waterbus/index.html</u> (那珂川水上バス HP)



## 【7位】

## 落合川

リバフロ (JRRN) にインターンシップで通って川づくりの事例収集をしている時,職員の方から住宅街の中だけど,いい川があるということで,落合川を訪ねた.

東京都東久留米市を流れる落合川は豊富に湧水が 湧き出ている川で、ホトケドジョウも生息するほど の水質. 都内にこんな美しい川があったとは. 氷川 神社付近の台地の切れ目からは南沢湧水群と呼ばれ る湧水が染み出していて、落合川の安定した水量と 水質を支えている.

落合川をずっと下って行くと、川の中で遊ぶ子供達の姿。自転車でちょっと遊びに来ることができる環境がそばにあり、本当にうらやましい。そしてなにより楽しそうだ。川沿いを行き交う人が子どもに声をかける光景もあり、都会では見られないコミュニティが川をきっかけとして生まれていた。落合川育ちの子供達はきっとサケのようにいつか大海原に下り、活躍してくれるに違いない

### 【6位】

#### 隅田川

インターンシップの昼休みに数人で近くの隅田川へ、隅田川は江戸期からの長い歴史がある。また浮世絵と現在の場所を比べると面影がわかるのが驚き、電車からみたらただの都市河川だが、歩いて川沿いでおにぎりを食べてみるといい川だなあと実感。夏服スーツ姿の大人が5人で川を見ながらおにぎりを食べている光景は傍からみたらさぞ、滑稽だったであろうが、オフィス街の昼休みにこんな光景がもっと広がってほしい。

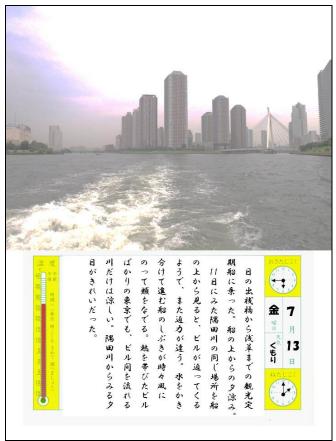
また、隅田川でも遊覧船がでていると教えてもらい、日の出桟橋-浅草間の船に乗った。隅田川の川風が夕涼みに最高だ。巨大都市東京を川の中から見つめたのははじめてで、船が動くたびにビルが迫ってくるようで迫力があった。

すっかり船が好きになり、別の機会には日本橋→ 亀島川→隅田川→日本橋川の夜のクルーズも体験した。船での川めぐり、一時はまりそうだ。

http://www.edo-tokyo.info/ship/summer.html (江戸東京再発見コンソーシアム HP)

http://www.suijobus.co.jp/cruise/index.html (TOKYO CRUISE HP)





# 【5位】

# 山国川・花月川

8月号にも掲載したが、7月3日と7月14日の梅雨前線の停滞により、北部九州において豪雨水害が発生し、山国川流域と筑後川流域の上流部(花月川)において甚大な被害が発生した。3日、花月川は3時間に172mmを記録し、観測史上第1位を記録した。また、3日、山国川の耶馬溪観測所においても1時間に約110mmと観測史上第1位を記録した。どうしても水害の爪痕を直後にみておきたかったので山国川と花月川を訪ね、各所で地元の人に被害状況の話を聞いた。

川沿いを下って行くと被災した堤防,道路はじめ, 民家も大きな被害を受けていた.証言によると,数 時間のうちに川が変貌し,水が溢れてきたという. 90代のおばあさんの話では昭和 28年水害に匹敵するものだったという.酒屋さんの話では、1階は全て水に浸かり,商品の酒瓶は全滅.被災直後には各地から多くの災害復旧ボランティアの方々が訪れ,一人暮らしのお年寄りの家の泥のかき出しなどに当たっていた.

普段は風光明媚な耶馬溪が数時間のうちに様変わりしてしまった.川は美しく、楽しい場所だけでなく、時に恐ろしい場所でもあることを改めて実感させてくれる水害現場であった.



## 【4位】

## 諏訪湖

私の研究調査のため、諏訪湖流域を訪ねた.河川で活動する市民団体が環境改善にどの程度パワー(量的に)もっているかを把握するため、今回はその中の一つ、諏訪湖流域の市民団体の方にお話しを聞き、人的なエネルギーがどの程度あるかを探った.

まずは活動場所の諏訪湖を見た方がいいということで、諏訪湖を船で案内していただいた。諏訪湖の流域全般のお話は信州大学名誉教授の沖野外輝夫先生が船上でおこなって下さった。諏訪湖流域は下水道普及率が90%以上になり、湖沼の水質が格段によくなったという。沖野先生曰く、普及率が90%を越えると閾値的に水質はよくなるという。他の市町村の方がどうやったら諏訪湖のように水質がよくなるか尋ねてくるそうだが、「90%以上を目指すのが一番の近道.」だそうだ。今年は水温が上がり、例年以上にアオコが発生していたものの、市民団体の方達の諏訪湖を綺麗にしたいという想いは強い。

今回話を聞いた下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会(通称;湖浄連)は60以上の団体が合同で活動する組織で、定期的に諏訪湖の湖岸清掃やアレチウリ除去、水環境調査などを行っている。ヒアリングをする中で、諏訪湖流域の市民活動の活動力の高さが定量的数値のみだけでなく実感としても感じられた.



# 【3位】

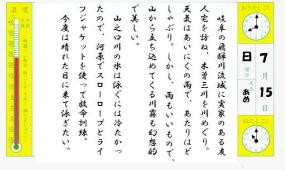
# 木曽三川

友人の実家がある岐阜県下呂市に遊びに行くことになり、木曽三川を巡った. あいにくの雨で木曽川流域の水位は高くなって河原に降りることができなかったり土砂災害の警戒で道の通行規制がかかっていたりなど制約が多かったので、下呂市を流れる飛騨川を中心に巡った. 一か所、飛騨川の支流の山之口川で河原に降りることができ、川を眺めた. 深い川底まで濁りのない透明度で今までみた川の中でも相当な美しさだった.

木曽三川は山間部ということもあり、ダムが多い。今回巡った箇所は飛騨川、大ヶ洞ダム、山之口川、馬瀬川、岩屋ダム、郡上八幡の宗祇水、長良川、阿木川ダム、岩村ダム、長良川河口堰などで、雨で当初の予定より訪問箇所は少なくなったものの、多くの見どころがあり、とても3日で周りきれるものではない。

雨で川は荒れていたものの,河岸段丘上に立ち込める雲や川を覆い尽くす川霧は幻想的であり,木曽川が激しく躍動しているのを感じるには十分な風景だった.





## 【2位】

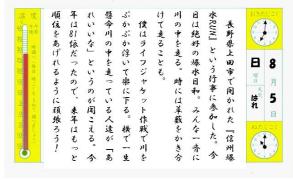
### 依田川

長野県上田市丸子において信州爆水 RUN が開催された.この行事は川の中を走るマラソン行事で,正式なマラソン競技としても認定されている.参加者も計 1266 人と多い.今回,研究室の先生はじめ,4人の猛者が依田川に行くことになり,3人が鉄人コースにエントリーした(1人はサポーター参加)川を下り,折り返して上り,また下る8kmのコースだ.河道内なら川の中でも,陸でもどこでも走っていいことになっている.

ピストルの音とともにみんな一斉に飛び出し、川を目指す.河原へ降りると、草藪をかき分けて進む者、岩場をよじ登る者、川の中を泳ぐ者など様々だ. 私は、動画や写真を取りながら、ライフジャケットで川の中をぷかぷか浮きながら下った. これが意外と楽で早い.川の流れを十分に楽しめる. 上流の上りでは、先生が俊足さを発揮されており、挑戦者が苦戦して遡っているところをすいすいと進んでいる. (さすがいつも、急流で現地観測されていることだけあって、河床の構造をよく把握されている.)

結局私のタイムは 1 時間 42 分 47 秒と 81 位だったが、なにより川の中をみんなで思いっきり走って泳ぐというこの行事が楽しかった。都合さえつけば来年も参加をしたい。





# 【1位】

## 那賀川

毎年,白川研究室の『川と人』ゼミではゼミ合宿が3泊4日で開催される.

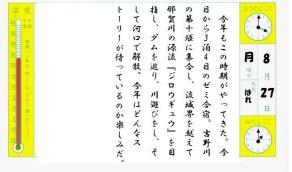
2006年から四万十川, 釧路川, 熊野川, 江の川, 米代川, 天塩川と続き, 今年は徳島県の那賀川である. この合宿は1学期から全体ゼミで毎回, 川調べをして行われる. 時には模型作り, 時には文献紹介, 時には模造紙発表などあらゆる方法を駆使してその流域を調べる. 調べた内容は全てゼミ合宿のしおりに圧縮して当日のアイテムとして持っていく.

今年は吉野川の第十堰で集合してから、那賀川の 源流を登り、流域界を感じ、ダムをめぐり、下流に 下り、河口で解散する. (毎年この流れは踏襲されて いる.)

現在,ゼミ合宿出発前夜に執筆しているため,今年も愉快な『川と人』ゼミの仲間と流域を周る中で素晴らしい出会いや発見があることを祈って,これを今年の夏の川めぐりの1位としたい.

明日から 30 日までゼミ合宿をし、その後 2 日まで、一人旅で高知の仁淀川、物部川を巡ってこようと思う. 学生最後の夏休みを迎えるには素晴らしい場所だ.





#### 【番外編】

#### 済州島の川

国際水工学会のアジア・太平洋大会で発表のため、韓国の済州島を訪問した. 空き時間に観光をしたが、どこに行ってもやはり気になるのは川. 済州島の川はどんなものなのか川を覗き込むが、驚くことにどの川にも水が一滴もない.

済州島は火山島であるため、水がすぐに地下に 浸透してしまい、雨が降っても表流水はすぐに海ま で流れてしまう。タクシーの運転手さん曰く、その ため、稲作はできず、畑作の作物をつくるのにも、 当時は水を汲みにいかねばならず苦労したそうだ。 川に水がない川もまた一つの川の形なのであろう。





川系男子の夏休みの川めぐりは無事終了. 私はこの夏の川での出来事を決して忘れないだろう. あ, 夏休みの宿題(やるべき研究課題)やるのを忘れていた・・・. そんな夏の終わり.

#### 【筆者について】

坂本 貴啓 (さかもと たかあき)

1987 年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代には YNHC(青少年博物学会)、大学時代では JOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 博士前期課程在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『郊外の湖沼・河川流域における社会変化に伴う流域管理のあり方に関して』と題し、流域の水質・水量の将来予測や河川市民団体の特性について研究中。最近のお気に入りは夕涼み船に乗って川巡りをすること。

※本記事で紹介した「絵日記」のオリジナル版は以下でご覧いただけます。(PDF 2.3MB) http://jp.a-rr.net/jp/activity/newsletter/files/2012/08/Newsletter\_vol63\_201209annex.pdf